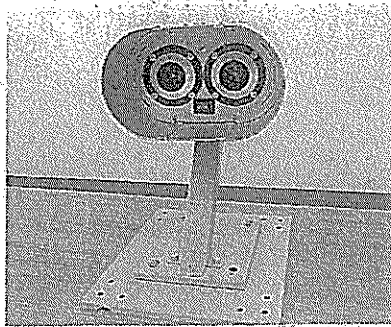


鳥獣撃退装置を拡充

低価格品など全5機種に

モハラテクニカ



モハラテクニカは価格を16万円程度に抑えた低価格品も投入する

板金加工のモハラテクニカ(群馬県高崎市、茂原純一社長)は超音波でカラスやイノシシを撃退する鳥獣被害対策装置「ユーソニック」を拡充する。低価格タイプや太陽電池搭載型などを追加し、年内に現在の2機種から5機種に増やす。山間部の農村を中心に農作物の被害が増えており、製品を拡充して利用者の要望にこたえる。

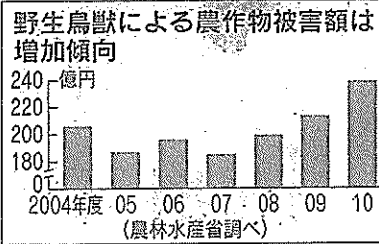
ユーソニックは搭載した高出力スピーカーから動物が嫌がる周波数の超音波を発生させ、鳥獣を追い払う。周波数を無作為に変化させる機能もあり、カラスなど学習能力が高い動物にも効果が高いという。

これまでに長野県や山梨県の地方自治体や農家などに販売実績を持つ。11年には鉄道に取り付けるタイプの製品も開発した。累計で230台程度の販売実績を持つ。

拡充にあたっては、まず価格を16万円程度と従来製品の約3分の1に抑えた新製品を発売する。

スピーカーの数を減らすなどでコストを抑えた。スピーカーを上向きにすることで鳥類への効果が高めた製品も出す。スピーカーに雨水が入らないよう工夫している。

山間部では電源がない



畑も多いため、太陽光パネルと大型の蓄電池を備えて、電源を必要としないう製品も開発する。

農林水産省によると、

10年度の野生鳥獣による国内農作物の被害額は239億円で、前年より1割以上増えた。同省は鳥獣被害は営農意欲の減退や耕作放棄地の増加をもたらすとして被害防止に力を入れている。

ユーソニックは電気柵などに比べて設置コストを抑えられるうえ、鳥に對しても効果が大きいという。自治体や農家だけでなく、完成車の保護用として自動車メーカーなどにも売り込む。